

## 青翔運輸株式会社

### 21世紀の物流新時代に飛翔

## 顧客満足は従業員満足と一体

# 確かな「人財」を育成し、地域貢献を続け、 社名(社命)を背負って今日も走ります



青翔運輸株式会社  
代表取締役社長

ふるや たか ゆ き  
古谷 隆之 氏

1974年4月、杉戸町生まれ。仙台市の物流会社で物流を2年間学んだ後、1996年に青翔運輸に入社。翔紀物流を立ち上げ後、両社の取締役就任し、野田営業所の立上げに従事する。2003年に青翔運輸専務取締役に就任し、ISO9001の管理責任者を兼任。2009年に青翔運輸と翔紀物流の代表取締役に就任。2008年に協立運輸、2016年に中村運輸をグループ化し、両社の代表取締役に就任。(一社)埼玉県トラック協会久喜支部の役員、青年部会会長、東部ブロック協議会役員などを兼任する。趣味は野球、バスケットボール、ゴルフなど。

人々の価値観も大きく変わり、物流業界も単に物を運ぶという時代から、物とともに「サービス」を提供する物流新時代へと変化しています。

青翔運輸は、創業から30年あまり「敬客愛品／お客様第一主義」をモットーに、お客様より信頼をいただくことにより輸送の良きパートナーとして成長を続けています。

積み荷は、多くの人の手や時間を経て出来上がった大切な商品であり、社員は大切な人財と考え、より良い人財育成のためのさまざまな研修を行い、顧客満足度と従業員満足度を高めています。

創業から現在まで、地域社会に貢献し、地域密着型総合物流会社として成長を続ける同社の古谷社長に話を伺いました。

### 地域や同業者に支えられて 青年3人でスタート

——社長は2代目となりますが、先代が青翔運輸を立ち上げた経緯をお聞かせください。

もともとは1985年の4月に先代の父（現会長の古谷松雄氏）が同業他社を退職した仲間2人とともに3人で立ち上げたことがきっかけです。運送業は、最低車両は5台という規定がありまして、とりあえず5台のトラックを用意してスタートしたそうです。スタッフは3人ですので、人よりも車両が多かったんですね。

## 青翔運輸株式会社グループネットワーク



当時は運送の免許の取得が難しく、1985年にある運送会社の運送免許を購入してスタートしました。先代は前社からの顧客は一切引き継がず、新規顧客の獲得を前提に始めたそうですが、前社で懇意にしてくれた荷主から逆に声を掛けられたことも多かったようです。本当に有難いことですね。先代の人望の厚さから、同じように支えてくれた顧客も多く、また、同業社から請け負うことも多かったそうです。色々な方に支えられた結果、今日があると思っています。

——青翔運輸の名前の由来をお聞かせいただけますか？

「青年よ、<sup>はば</sup>翔たけ」というメッセージを込めて「青翔運輸」と名付けたそうです。創業当時、先代は35歳という若さでしたからね。私が11歳ですから、決意はもちろん深かったのですが、不安もあったと思います。

スタートは、今の会社の隣のスペースを借りてプレハブからはじめたのですが、周囲の方々にも助けられたのですね。現在も「地元密着」の姿勢は変わっていませんが、当時は今以上に周囲の方々のサポートは大きかったと思います。

創業当初、顧客はゼロだったと聞いています。スタート時は、同業者のサポートが大きかったようです。この業界は特殊でして、同業者はもちろんライバルなのですが、どうしても自社のトラックだけでは積載できない荷物が出てくるわけです。それをお互いにやり取りし合って業務を行います。納期は限られていますから確実に届ける必要があります。

私は異業種交流会にもよく参加しますが、やはり同業者はライバルであって、協力し合うことは本当に稀と聞きます。その点、この業界は今でも横のつながりは深いのです。特

に地域に根差した運送会社間では多いと思います。

先代の先見の明もあったと思いますが、今振り返ると、時代の流れにうまく乗れたことも大きいと思います。創業以来、有難いことに年々顧客は増えてきました。顧客の業種は多種多様で、業種によってはその時の経済状況で業績も左右されます。顧客が特定業種に偏っていると、業績が良い時は大変有難いのですが、不振な時は一気に仕事がなくなります。そうした点でも多業種の顧客を持てたことは本当に有難いと思います。

—現在は顧客にはどのような業種が多いのでしょうか？

今は建築関係のお客様が半数位ですね。建築資材や型枠、建機などさまざまな物を運んでいます。あとは工事現場での発電機や水槽の輸送も多いですね。水槽といってもプール状のものではなく、排水用の大型水槽です。掘削の際に土砂に含まれる地下水の排水用等、色々な種類の水槽があるのですが、その運搬にもよく声をかけていただいております。

**特殊な物流ニーズにも柔軟に対応、  
経験を積み上げで確かな信頼を獲得**

—「人以外は運びます」という御社のキャッチフレーズがありますが、今まで輸送したなかで特に変わったものはありましたか？

先ほど水槽の話が出ましたが、水族館のシャチを運んだことがあります。テレビニュースでも紹介されたことがあるので、もしかしたらご存知の方もいるかもしれませんね。水族館のプールから届け先の運送車まで運びました。こういった輸送物は「特殊輸送品目」と呼ばれるのですが、動物の輸送の依頼は多いです。シャチ以外にもキリンやシマウマ、イノシシなども運びましたね。遊園地間や動物園間の輸送でよく声がかかります。

動物は非常に繊細でストレスに過敏な生き物なんですね。特に大型哺乳類は震動に弱いと言われていています。昨年もシマウマを運びましたが、ストレスのせいか輸送直前に一頭が死亡してしまっただけです。園側もナーバスになっていましたが、どうしても輸送しなくてはならない状況で、ドライバーもいつも以上に緊張していたと思います。その時は夜中の輸送だったのですが、届け先の動物園に無事到着した際は、夜中にも関わらず、多くの園のスタッフから盛大な拍手で迎えられたそうです。——拍手で迎えらえることは滅多にないと思いますから、ドライバーにとっても嬉しいエピソードですね。動物の輸送はやはり実績からでしょうか？

やはり経験は大きいですね。今はあまり行われなくなりましたが、サーカスの動物の輸送も数多く手がけました。サーカスなどの興業はプロバイダーから依頼されるわけですが、それを耳にした同業者を通じて声がかかることも多かったそうです。その後もシャチの輸送の依頼もありましたが、動物の輸送は本当に神経を使います。先ほども申しましたが、動物は繊細ですので、慎重の上にも慎重を期して、場合によってはシミュレーションを何度も繰り返すこともあります。

動物以外ではシーズンになると「もみの木」を運びましたね。クリスマスツリーとして杉戸から銀座や都心部へも数多く運びました。——ところで、今は何台のトラックを保有しているのでしょうか？

青翔運輸としては70台を保有しています。グループ全体では130台くらいです。平ボディ車とユニック車が半分、ウイング屋根付き車で半分くらいです。容量もそれぞれ大型と中型・小型で半々くらいですね。トラックの種類には平ボディ車、ウイング車、ユニック車の大きく3種類があります。



平ボディ車というのは、屋根やふたがなく、荷台を囲っているだけのトラックです。屋根がないのでクレーンやフォークリフトでの積み降ろしに最適です。主に建築資材、重機、機械、パレット物などの運送に利用されています。屋根がないことで、高さ制限のある場所でも活躍できる万能タイプのトラックです。

ウイング車はその名の通り、トラックの屋根が鳥の翼のように開閉する車両ですね。フォークリフトやバラ荷物の積み降ろしに最適で、ウイングパネル閉扉時は、バン型車となり雨天時でも雨濡れ防止に最適なトラックです。主にケース物、パレット物、印刷物、常温食品、紙類などの運送に利用されています。また、特殊な利用法ではありますが、ミニステージとしてご覧になった方もいると思います。

そしてユニック車は、トラックの荷台とキャビンの間にクレーンが付いた車両です。

重量物などクレーンによる積み降ろしに最適なトラックです。主に建築資材、重機、機械、配電盤、自販機などの運送に適しています。先ほどの大型水槽などもユニック車のクレーンで積み上げて降ろすわけです。

——事業の拡大でトラックも増えますが、比例するように資材などを管理・保管する倉庫も増えていくわけですね。

そうですね。創業の1985年から数年間はここ杉戸が唯一の拠点でしたが、1991年には茨城県の古河市（当時の総和町）に最初の営業所を開設します。この茨城営業所には危険物倉庫等3つの倉庫があり、スペースは合計で460坪あります。2003年には野田市に3倉庫で合計3,300坪のスペースを持つ野田営業所を開設し、2008年には本社からほど近い幸手市に3倉庫で合計465坪のスペースを持つ幸手営業所を開設しました。幸手営業所には2017年の秋に1,000坪強の倉庫が完

## 顧客ニーズに対応した多種多様な車両を用意



6t 平エアサス



7t ユニックエアサス



15t ウイング低床エアサス



大型車対応タワー型洗車機



自社所有スタンド

青翔運輸グループ 保有車両

■ 15 t 平低床 AS	6 台
■ 15 t 平中低床 AS	3 台
■ 15 t ウイング低床 AS	18 台
■ 15 t ユニック AS	1 台
■ 7 t ユニック AS	5 台
■ 6 t 平ワイド AS	1 台
■ 4 t 平 AS	5 台
■ 4 t 平	8 台
■ 4 t ウイングワイド 7.2m	1 台
■ 4 t ウイングワイド AS ゲート	2 台
■ 4 t ウイングワイド AS	3 台
■ 4 t ウイング AS	1 台
■ 4 t ウイング	3 台
■ 3 t 平ワイド	1 台
■ 3 t 平	1 台
■ 3 t ユニック	1 台
■ 2 t 平ワイド	3 台
■ 2 t 平	3 台
■ 2 t 平ショート	1 台
■ 2 t 箱ゲート	2 台
■ 2 t 箱	1 台
■ フォークリフト	21 台

※上記車両はグループと専属備車を除く。  
 ※名称は通称で、○tは実際の最大積載量ではありません。  
 ※ASはエアサスペンションの略です。

成する予定で、現在利用業者を募集中です。そして2010年には倉庫スペース280坪の羽生営業所を開設しました。

ちなみに本社には、3つの倉庫とテント倉庫・荷捌場にさばきばがあり、その合計は約1,000坪。それに加え、個人や事業者向けのコンテナボックスを保有しています。本社倉庫は、主に建設資材などの保管倉庫として利用されていますが、他の営業所倉庫は坪貸しや、食品などの専有倉庫として利用いただいているところが多いですね。

——同業者や地域との関わりで、着実に実績を積み上げてこられたわけですが、今後のさらなる発展のための方向性や目標などをお聞かせいただけますか？

営業所、倉庫を増やすなど、営業網の拡大はもちろんですが、体制強化のためのM&Aも視野に入れています。今年の春に東松山市の中村運輸株式会社をグループに加えて新体制でスタートしたのですが、今も同じような話をいただいているところです。8年前にも協立運輸株式会社と手を取り、順調に進んで参りましたが、今後も旧体制を継承しながら、スムーズな移行とグループとしての相乗効果が期待できればと思っています。

弊社は県の東部や北部に拠点を置いていましたが、中村運輸株式会社は、県西部に位置し、深谷にも300坪の倉庫を保有していますので、県内をほぼ全域カバーすることができますし、今後も事業拡大を推進していく予定です。

そうした中で、懸念材料もあります。業界全体に運転手不足が続いていることです。これは弊社の課題でもあります。この運転手不足の対策の一つとして、2017年の3月から新たに新免許が登場します。現在は、普通免許、中型免許、大型免許の3種類の免許がありますが、普通と中型の間に「準中型免許」

が加わります。

現行制度で普通免許が取得できるのは18歳以上ですが、中型免許取得は「普通免許保有2年以上」の経験が必要です。高校卒業と同時に免許を取得して入社しても、即戦力となるドライバーになるまで2年を要するわけです。これを準中型免許という小型貨物トラックに限定した新しい区分を設けることで、中型免許の範囲には及びませんが、2年の経験がなくても18歳からドライバーとして即戦力となりえます。もちろん、その後の中型、大型の免許の試験は必要になります。

さらに18歳の若者たちが入社したいと思える魅力的な業界にする努力も我々に課せられていると思っています。

#### 顧客満足と従業員満足は一体 従業員の資質向上のためにも絶えず教育を

——「魅力ある業界」ということですが、御社としてはどのような魅力づくりを行っていく予定ですか？

やはり地域貢献が第一ですね。私はトラック協会の久喜支部の青年部会長でもあります。協会の啓発活動として、近所の幼稚園や小学校にトラックを持ち込んで「働くトラックとおともだち」というイベントを行っています。冷凍車やクレーン車などの大型車に園児や児童に乗車してもらい、定期的に交流の場を設けています。

また、毎年、埼玉県トラック協会で「交通安全環境フェア」も開催しています。以前は上尾の水上公園で開催していましたが、ここ数年は埼玉スタジアムの駐車場にトラックを持ち込んで、来場者と交流の場を設けています。

埼玉県トラック協会では今年で12回を数えますが、交通安全をテーマにした絵画コンクールも主催しています。小学生から絵画を応募してもらい、入賞作品はトラックの車体

にラッピングしたり、  
絵画を掲載した交通安全  
カレンダーを作成・  
配布しています。

—いろいろな活動を  
されているんですね。  
魅力ある業界の実現の  
ために従業員に期待す  
ることはありますか？

私は顧客満足と従業  
員満足は一体と考えて  
いて、互いの満足度を  
高めるためには、やは  
り健康でなければと強  
く思っています。現  
在、グループ全体で  
160名以上在籍してい  
ますが、有難いこと  
に、皆さん長く働いて

いただいて、従業員の定着率は同業種の中  
でも高いと思います。しかしその分、年齢も壮  
年期の方が多くなってきました。

私も含めてですが、この業界は体が資本だ  
と思っています。自分が健康でなければよい  
サービスを提供することはできませんし、毎  
回体調管理が第一と訴えています。健康意識  
を高めるために、年2回の健康診断を実施し  
ています。何かあった場合も早期発見につな  
がるように数年前から健診は年2回に増やし  
ました。

健康管理とともに、従業員教育も重要で  
す。教育に終わりはありませんからね。弊社  
では10年以上前から全従業員を対象とした  
「青翔グループ全体研修会」を毎年4月と10  
月の年2回実施しています。ドライバーだけ  
でなく、配車担当者や倉庫作業員全員を対  
象に行っていますが、日常業務に関わることは  
もちろんですが、生活での必要な知識など、

## 年2回の全体研修会を実施

青翔運輸では従業員を「人財」と考え、より  
良い人財育成のための全体研修や個人のキャ  
リアに適した研修を行っている。

また、インターネットによるドライバーの運  
転適性診断システムの利用や、人命救助のため  
の普通救命講習の受講者も多く、従業員の資格  
取得に積極的である。



年2回の全体研修会では、運輸支局  
やトラック協会からの表彰や、貢献  
による社長賞などの各種表彰も行っ  
ている。

■ 運行管理者	16名
■ 整備管理者	14名
■ 物流技術管理者	1名
■ 安全管理者	2名
■ 安全衛生推進者	6名
■ 交労災防止管理者	4名
■ 防火管理者	2名
■ 腰痛予防管理者	5名
■ 引越管理者	2名
■ はい作業主任	7名
■ 車両系作業指揮者	14名
■ タイヤ空気充てん	1名
■ フォークリフト運転技能講習	68名
■ 小型移動式クレーン(5t未満)	12名
■ 床上操作式クレーン	2名
■ クレーン特別教育(5t未満)	4名
■ 玉掛技能講習	30名
■ 玉掛の業務特別教育	4名
■ 車両系建設機械運転技能講習	5名
■ 小型車両系建設機械特別教育	1名
■ 危険物取扱者 乙種 第4類	6名
■ 危険物取扱者 丙種	1名
■ 普通救命講習	80名

※上記は本社のみ的人数で、グループ会社は除く。

座学であったり実技であったりスタイルも内  
容もさまざまです。

最近の全体研修会では、全営業所にAED  
を設置していますので、AEDを用いた救急  
救命の実技講習や、ドライブレコーダーの事  
故映像を視聴して、その原因や問題点を確認  
したり、ホテルの接客や対応を学ぶマナー講  
習などを行いました。テーマは多岐に及びま  
すが、従業員にとっても家族にとっても意義  
のあるテーマを選んでいきます。以前は各営  
業所で数回に分けて行ったりもしましたが、従  
業員が多くなりましたので最近では町の施設  
「すぎとピア」で行うことが多いですね。

また、弊社ではドライバーを班編成してい  
るのですが、その班長と営業所長とで月初の  
夕方から「管理者会議」を開催しています。  
議長持ち回りで行うのですが、議題の前に  
20分の自由時間を設けています。熱中症や  
風邪などの季節的な予防法や体調管理から、



## 青翔運輸グループ 部活動

青翔運輸には、2つのスポーツチームがある。ソフトボール部は、杉戸町のソフトボール連盟に加入し、春と秋、そしてリーグ戦に参戦している。

マラソン部は、営業部長を勤める遠藤誠選手1名だが、各大会や記録会で活躍している。遠藤選手はマラソンを始める前は野球選手として活躍し、春日部共栄高校で夏の甲子園大会に3番セカンドで出場し準優勝。大学時代は日本選手権神宮大会で2度の優勝を経験し、大学卒業後も都市対抗大会に3回の出場経験を持つ。怪我が原因でマラソンに転向後も、福岡国際マラソン等に出場し、2時間22分47秒のフルマラソン記録も持っている。



縁あって当社に入社し、現在は大会や記録会などにも積極的に参加して、輝かしい記録を残している。さらに目の不自由な方（ブラインドランナー）の伴走をするなど、社会貢献も行っている。



交通規制法の変更などを問題形式にして質疑するなど、内容やテーマは議長に全て任せています。議長によっては資料を作成したり、講義形式であったり実にさまざまですが、視野を広げたり、人前で意見を述べるなど、資質の向上とともに従業員のコミュニケーションの場としても有意義な会議になっています。——座右の銘とか尊敬する人物はいらっしゃいますか？

座右の銘ですね、「<sup>うんがいそうてん</sup>雲外蒼天（困難を乗り越えて努力すれば澄んだ青空が望める）」とか言えば恰好良いのでしょうか、その時その時の状況や思いで変わるので、特にこれというものはないですね。尊敬する人物はいろいろいますが、やはり一代でここまで築き上げた父の存在は大きいと思います。

先代の意思として、今も弊社では給与は手渡ししています。明細だけでなく現金の入った給与封筒を渡しています。これは創業時に両親が決めたことで、会社に対する熱い思いがあり、今も経理を担当している母が直接封入しています。

こうした思いはこれからも継承していきたいと思っています。

## 青翔運輸株式会社 概要



創 業	1985年4月
資 本 金	3,000万円
売 上 高	30億円 (2015年8月実績 グループ含む)
従 業 員	160名 (2016年11月現在 グループ含む)
本 社	〒345-0002 北葛飾郡杉戸町鷲巣110-2
電 話	0480-38-1128
ホ ー ム ペ ー ジ	<a href="http://seisho-group.jp/">http://seisho-group.jp/</a>
取 引 店	春日部支店